

九州4地銀、政投銀など 事業再生支援新ファンド

西日本シティ銀行など九州の主要四地銀や日本政策投資銀行、あおぞら銀行は十六日、地場企業
の事業再生を支援するため、総額約三十億円を出資し、地域特化型の「九州BOLEERO（ボ
レロ）ファンド」を設立することで合意した。債務免除など金融機関の最終処理が必要な、地元
の有力企業を主な支援対象とする。四地銀は、既に企業の事業承継分野でも協力関係にあり、フ
ァンド連携、第二弾となる。

総額 30億円 地場有力企業対象に

出資する地銀は西日本
シティのほか十八、肥後、
鹿児島銀の三行。ファン
ド運営は、ドーガン・イ
ンベストメンツ(福岡市)

ドが投資対象にできない
再生案件が現在多く持ち
込まれており、これに対
処するため、新ファンド

設立に踏み切った。
新ファンドは、①事業
の多角化で過剰債務を
抱える②強みを持ちなが

ら業績不振に陥っている
③法・私的整理後に業績
が悪化した一企業などが
対象。再生手法として、

金融機関からの債権買
い取り、債務の株式化に
よる負担軽減などを行う
とともに、支援企業を
探して早期に再生させ
る。各地銀がかかわって
おり、県域を越えた企
業連携も提案しやすいと
いう。

また、支援企業の主要
事業を引き継ぐ受け皿
会社に出資することで経
営に携わり、一―三年後
に支援企業へ株式を売却
する手法も想定。ドー
ガンは「フリッジファン
ドの活動により、大企業
の生産子会社から、経
営陣による自社買収(M
BO)の相談が持ち込ま
れているため」としてい
る。

昨年五月、ドーガンの
運営で、この四行なども
出資する四十八億円規模
の「九州事業継続フリッ
ジファンド」が設立され
た。太陽電池メーカーの
ヨカソル(福岡県大牟田
市)が行った従業員によ
る事業買収(EBO)支
援で知られる。同ファン

ドは原則五年間。

地場の再生ファンドと
しては、福岡銀や大分銀
などが出資する百五十五
億円規模の「ナイン・ス
テーツ(九州)2」など
がある。